



カモ

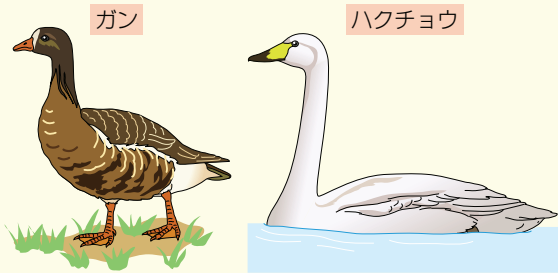


カモのなかまは、(1)や(2)、(3)にすみ、^{すいめん およ}水面を泳いだり水にもぐったりして(4)や(5)、(6)や(7)などいろいろなものを食べます。

カルガモなどは、1年を通して日本で見られる(8)です。マガモなど、秋から冬にかけて北の国からわたってくる(9)もいます。

+プラスワン

マガモなどのように、秋から冬にかけて北の国から日本にわたってきて、春になると北の国へわたる「冬鳥」には、ほかにガンやハクチョウなどがいます。

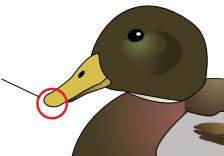


からだのつくり

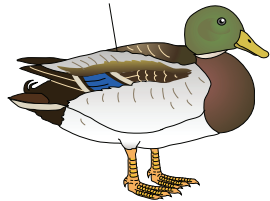
マガモのおすは、頭が^{みどりいろ}緑色で(10)をしています。めすは茶色の(11)をしています。

マガモは水面にうく植物などをすくって食べるため、(12)くちばしをもちます。

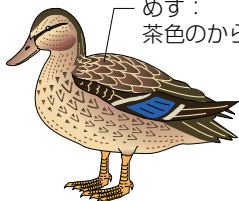
はばが広い。



おす：緑色の頭をもつはでなからだ



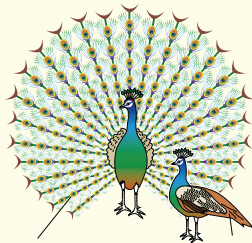
めす：茶色のからだ



+プラスワン

マガモのように、クジャクやキジもおすのほうがめすよりもはてなすがたをしています。

クジャク



おす：大きくて美しいはね

キジ



めす：茶色のからだ

カワセミ



カワセミは、川や^{みずうみ}湖の近くなどにすむ(13)です。(14)くちばしと、(15)のからだが特ちょうです。

カワセミは樹木の枝の上などからえものをねらい、水の中に飛びこんで魚などの小さな(16)をつかまえ、食べます。



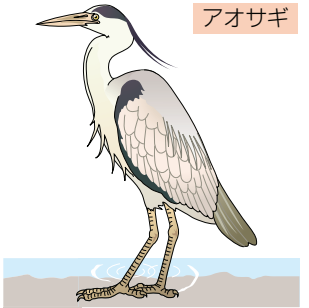
カワセミの名前には「セミ」がつくため昆虫のセミのなかまだとまちがえやすいけれど、^{ちようじ}鳥類なのです。よく覚えておくのですぞ。

サギ



サギのなかまは、田んぼや川などでよく見られる(17)です(地域によっては、冬鳥である場合などがあります)。長いあしと首、くちばしが特ちょうです。サギには、シラサギやアオサギなどがいます。

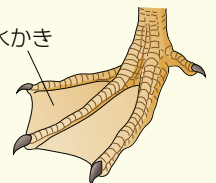
サギはくちばしを水の中に入れ、(18)や(19)など小さな動物をつかまえて食べます。



+プラスワン

サギやカモ、ツルなど、水辺で生活する鳥を「水鳥」とよぶことがあります。水鳥の中には、カモのようにあしに水かきがついているものもいます。

水かき

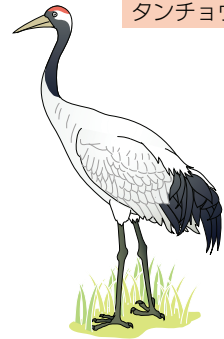


ツル



ツルのなかまは、草などが生えた(20)場所にすむ大きな鳥です。ツルの中でも、タンチョウは北海道で見られる(21)です。ほかに、冬に日本にやってくる冬鳥の種類もあります。長いあしと首、くちばしを持ちょうです。ツルは昔からえんぎがよい動物だとして親しまれてきました。

ツルは、(22)や(23)などいろいろなものを食べます。



ペンギン



ペンギンのなかまは、(24)の、南極や南極に近い場所に多く生息する鳥です。つばさが小さく、(25)が、水の中をすばやく(26)。

ペンギンは水にもぐって(27)をつかまえ、食べます。

成長のようす

ペンギンなどの鳥類は(28)です。めすは(29)におおわれた卵を産みます。親は(30)するまで卵を(31)、ふ化したあとも(32)をします。

コウテイペンギン



からだのつくり

ペンギンのひなのからだは、ふわふわとした(33)でおおわれています。成長するとやがて羽毛が生えかわります。おとなのペンギンの羽毛は、からだから出る(34)がぬられてあり、水をはじくようになっています。

プラスのツ

ペンギンやニワトリのように、ダチョウもつばさを持ちますが飛ぶことはできません。ダチョウはうしろ足が発達しており、速く走れます。

ダチョウ

